

第1学年〇組 国語科学習指導案

日 時：令和5年〇月〇日（〇）第〇校時

場 所：1年〇組教室

授業者：〇〇 〇〇

1 単元名・教材名 おはなしのせかいに とびこもう！「くじらぐも」

2 児童の実態と本単元の意図

本学級は、明るく素直な児童が多く、人数が少ないこともあって男女の垣根を越えて交流している。学習には意欲的であるが、理解力や学習内容の定着には個人差がある。友達と協力したり教え合ったりする中で、学習を進めてきた。

国語に関しては、全員が全ての平仮名は正しく読めるが、文章になると、言葉のまとまりが分からなくなったり、内容を読み取ったりすることに苦戦している児童が見られる。毎週、図書館に行って本を借りたり、6年生による読み聞かせをしてもらったりしていることもあり、物語文への関心は高い。これまで、「はなのみち」や「やくそく」などの物語文では、「文ちゃん人形」を使って「誰が・何をした」を確かめ、内容の大体を捉える学習をしてきた。また、「おおきなかぶ」では劇、「おむすびころりん」では音読劇、「やくそく」ではペープサートの活動に取り組んだ。リズムに乗って読んだり、自分の役を演じたりし、友達と作り上げる楽しさを味わった。ICT 端末で自分たちの音読や劇の様子を録画して、自分たちの読みや動きを客観的に見て、より良い音読の仕方や表現方法を探るという経験をしている。

本学級の児童に、国語に関する実態調査を実施したところ、以下のような結果が出た。

「国語の学習アンケート」（調査日：令和5年〇月〇日 調査人数：〇人）

質問	すごく好き	まあまあ好き	あまり好きではない	好きではない
①国語の勉強は好きですか。	60%	20%	20%	0%
②本を読んだり、読み聞かせを聞いたりするのは好きですか。	73%	13%	7%	7%
③友達や先生に考えを話すのは好きですか。	47%	26%	7%	20%
④友達や先生の考えを聞くのは好きですか。	74%	13%	0%	13%
⑤文を書くのが好きですか。	26%	7%	20%	47%
⑥お話の様子や人の気持ちを想像して、お話を読むのは好きですか。	40%	13%	7%	40%
⑦国語の勉強をすると、どんなことができるようになると思いますか。	・字が書ける・字を読める・他の勉強に繋がる・頭が良くなる・勉強を好きになる ・心が落ち着く・自信がつく			

このアンケートから、全体で見ると、「読む」「聞く」のインプットは好きだが、「話す」「書く」のアウトプットは苦手という傾向がある。その中でも、86%の児童が、「読書や読み聞かせが好きである」ということが分かった。しかし、「気持ちを想像しながら読むこと」には苦手意識があるようだ。本単元を通して、想像しながら話を読むことは、より本の世界に入り込むことができ、とても楽しいことであるということを実感できるようにしたい。

本教材「くじらぐも」は、現実と非現実が織りなされながら、くじらと子供たちが関係を築いていく物語である。そのため、児童にとって身近に感じられ、無意識のうちに児童は物語の世界に引き込まれていくだろう。登場人物が準備運動をしたり、雲に飛び乗ろうとしたり、実際に児童が真似したくなる要素が盛り込まれている。また、見開きごとに場面が構成され、全てのページに体育着と赤白帽の姿をした子

供たちが描かれた挿し絵となっている。内容の順序を追いやすく、挿し絵と言葉を対応させることで、場面の様子や人物の気持ちが想像しやすくなるだろう。

以上のような本教材の特徴を活かし、次のような手立てを講じる。導入の段階では、気になるところを出し合い、それについて話し合うことで、本教材への興味関心を高める。それと同時に、感じ方は人それぞれであることを実感できるようにする。次に、場面毎に読み深める活動では、登場人物の会話や気持ちを吹き出しに書き入れる活動を取り入れる。その際、どの文や言葉からそう考えたのか根拠をもって考えるよう指導する。繰り返しや呼びかけ、「てにをは」の使い方などの表現に着目することで、言葉や表現にこだわって読む視点をもてるようにする。また、場面毎に動作化し、自分が想像した場面の様子や人物の気持ちを表出する機会を設ける。最後の読みをまとめる活動では、言葉に着目して想像したことを劇という形で表現する。自分たちの動きやセリフを動画で記録して見直すことで、自分の表現を客観的に見られるようにする。そして、このような学習活動の中で、語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読する力も養いたい。

3 研究主題との関わり

令和5年度西部地区学力向上のための授業研究会研究課題

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

研究の視点

主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくり
～各教科の「見方・考え方」を働かせた学習活動の充実～

研究課題解決のための仮説と手立て

仮説Ⅰ 基礎基本の定着を図り、一人ひとりの児童に学ぶことの楽しさや意義を実感させることで、思考の基礎となる力が身に付くであろう。

手立て① 毎時間に音読を行い、口形や語のまとまりに気を付けて音読する意識をもてるようにする。

手立て② 単元の導入段階において、気になるところを話し合うことで、学習の必要感をもてるようにする。

手立て③ ペアやグループ学習を取り入れ、共に学び合う楽しさを味わえるようにする。

仮説Ⅱ 言葉に着目する発問や振り返りを工夫することで、言葉による「見方・考え方」を働かせることができるだろう。

手立て① 考えの根拠となる叙述を明確にするための発問や切り返しをすることで、言葉に着目して思考することができるようにする。

手立て② 言葉に立ち返る振り返りの観点を提示することで、言葉に着目した言語活動の価値を感じられるようにする。

仮説Ⅲ 学習過程の中で、言語活動を充実させることで、思考力・判断力・表現力を高めることができるだろう。

手立て① 毎時間に帯の言語活動を取り入れ、思考力・判断力・表現力の素地を養う。

手立て② ICTを活用して自分の動きを撮影することで、自らの言語活動を客観的に捉えられるようにする。

4 単元の目標

- (1) 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。
〈思考力、判断力、表現力等〉C(1)エ
- (2) かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。 〈知識及び技能〉(1)ウ
- (3) 語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。 〈知識及び技能〉(1)ク
- (4) 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。
〈思考力、判断力、表現力等〉C(1)イ
- (5) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。
〈学びに向かう力、人間性等〉

5 単元で取り上げる言語活動

登場人物の行動等について具体的に想像したこと基に、セリフや動きを工夫して演じる。

(関連：言語活動例 イ)

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。 (1)ウ	①「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。 (C(1)エ)	①言葉がもつよさを感じるとともに、積極的に想像力を広げて物語を読み、想像したことを伝え合ったり演じたりしようとしている。
②語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。 (1)ク	②「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。 (C(1)イ)	

7 指導と評価の計画(全8時間扱い)

次	時	主な学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価
第一次	0	○校庭で雲の観察をする。		○教材への興味・関心を高める。
	1	○どんな雲を見つけたかを出し合い、物語への興味を高める。 ○単元のゴールを確認する。	○多様な考えの交流 ○学習の見通し	○人によって考えや感じ方は違い、どうしてそう思ったのか理由を言えることの大切さを伝える。

	<p>1</p> <p>○劇をするために必要なことを考え、学習を見通す。 ○物語の設定を確認する。 ○試しの動作化をする。</p>	<p>○劇を見せる相手と方法 ○登場人物 ○動作化の観点 ・セリフの言い方 ・動き・表情</p>	<p>【主体的に学習に取り組む態度①】 <u>観察</u> ・積極的に想像しながら物語を読もうとしているか確認する。</p>
	<p>2</p> <p>○全文を読んで「気になる」ところを出し合い、話し合う。 「子供たちが1番楽しんでいる場面はどこだろうか？」</p>	<p>○「気になる」の観点 ・心に残る ・不思議に思う ○感じ方の違いに気付くこと</p>	<p>【思考・判断・表現②】 <u>教科書・ノート</u> ・場面の様子や登場人物の行動を正しく捉えているか確認する。</p>
<p>第二 次</p>	<p>3 4 ⑤ 6</p> <p>○場面ごとに、登場人物の会話や気持ちを想像して吹き出しに書き、その理由を出し合う。 ○想像した登場人物の会話や気持ちを動作化する。</p>	<p>○場面の移り変わり ○語のまとまりに気をつけて音読すること ○会話や行動・様子を表す言葉 ○叙述を基に想像すること ○想像したことを表現すること</p>	<p>○想像する時には、叙述を基に考えることを指導する。 ○自分が物語の世界に入ったら、どんなことを言ったり、どんな気持ちになったりするか想像するようアドバイスする。 ○想像した登場人物の気持ちが伝わるように、話し方や動きなどを工夫するよう指導する。</p> <p>【知識・技能①】 <u>教科書・ノート</u> ・かぎ（「」）を正しく使えているか確認する。</p> <p>【知識・技能②】 <u>音読</u> ・語のまとまりを正しく捉えながら、「、」や「。」に気をつけて音読しているか確認する。</p> <p>【思考・判断・表現①】 <u>教科書・ノート・観察</u> ・場面の様子や登場人物の行動から、登場人物の会話や気持ちを具体的に想像しているか確かめる。</p>

第三次	7	○劇発表会に向けて、シナリオ作りをする。	○語のまとまりに気をつけて音読すること ○想像したことを表現すること	○試しの動作化を見直し、読み深めた実感を持てるようにする。 ○動画で撮影し、自分たちの動きを客観的に捉えられるようにする。 【思考・判断・表現①】 観察・動画 ・想像した登場人物の気持ちが伝わるように、セリフの言い方や動きなどを工夫しているか確認する。
	8	○劇発表会をする。 ○単元のまとめをする。	○語のまとまりに気をつけて音読すること ○想像したことを表現すること ○感じ方の違いに気付くこと	【主体的に学習に取り組む態度①】 観察・動画 ・これまでの学習をいかして、想像したことを友達に伝えようと工夫しているか確かめる。 ○会話や行動・様子を表す言葉に注目すると、登場人物の会話や気持ちを想像することができることを確かめる。

8 本時の学習指導（5／8時）

(1)目標

- 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。

〈思考力、判断力、表現力等〉C(1)エ

(2)評価規準

- 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。

【思考・判断・表現】

(3)展開

学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価	時間
1 スモールトークをする。		○毎時間に帯の言語活動を取り入れ、自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞いたりする態度を養う。	5
2 前時を振り返り、本時の見通しをもつ。	○行動から登場人物の気持ちを想像すること	○登場人物の行動に着目すると、会話や気持ちを想像できることを振り返る。	2
3 本時の課題を確認する。		○「うたをうたいました」から、登場人物がどんな気持ちであるか考え、本時の課題に繋げる。	5
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> め子供たちは、くじらぐもの上から何を見て、どんなお話をしているのだろう。 </div>			

<p>4 くじらぐもに乗っている子供たちについて話し合う。 ・グループ→全体</p> <p>(1) どんな会話をしているか想像して、吹き出しに書き込む。</p> <p>(2) 想像した会話を動作化しながら、全体で共有する。</p>	<p>○叙述を基に想像すること 〈期待される児童の反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私の家はあるかな。いい眺めで気持ちいいな。 ・あそこの海で泳いだら楽しそう。 ・学校の校庭でも、体育をしているね。 <p>○会話や行動、場面の様子を表す言葉</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〈押さえない表現〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うみのほうへ、むらのほうへ、まちのほうへ。 ・青い青い ・うたをうたいました。 ・どこまでもどこまでも </div> <p>○想像したことを表現すること</p> <p>○叙述を基に想像すること</p>	<p>○「何が見えたのか」「どんな会話をしたのか」についての自分の考えを書くことを確かめる。</p> <p>○自由にペアやグループを組み、友達と対話する中で想像を膨らませる。</p> <p>○空から見えた美しい景色や、青空を駆け巡る爽快感などを表現しているグループを価値付けて、全体へ広める。</p> <p>○どうしてそのように想像したのか問いかけ、場面の様子や登場人物の気持ちを想像するために適切な語句に着目させる。</p> <p>○児童から出た意見を吹き出し黒板に書き、着目した表現ごとに分類して掲示する。</p> <p>○気持ちが伝わるように、読み方だけでなく動きも工夫してなりきっているグループを称賛する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>〈評価規準〉</p> <p>【思考・判断・表現①】</p> <p>〈評価方法〉</p> <p>教科書・ノート・観察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場面の様子や登場人物の行動から、登場人物の会話や気持ちを具体的に想像している児童をBとする。 <p>〈「努力を要する」状況(C)への手立て〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挿絵の中の子供を指定し、「この子はどんなことを言ってそう？」と焦点を絞り、会話や気持ちを想像できるよう支援する。 </div> <p>○場面の様子や登場人物の行動や気持ちに着目することで、登場人物の会話や気持ちを想像できることを確かめる。</p>	<p>20</p> <p>5</p>
<p>ま 周りの様子から、子供たちのお話を想像できる。</p>			
<p>6 まとめの音読をする。</p>	<p>○語のまとまりに気をつけて音読すること</p>		<p>3</p>

<p>7 学習の振り返りを する。</p>	<p>〈期待される児童の振り返り〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周りの様子に注目すると、気持ちを想像できると分かった。 ・友達は違うセリフを想像していて、面白い。 ・お別れの場面でも、周りの様子に注目して読みたい。 	<p>○言葉に立ち返る振り返りの観点を提示することで、言葉に着目した言語活動の価値を感じられるようにする。</p>	<p>5</p>
---------------------------	--	---	----------

(4)板書計画



9 備考 在籍児童数：○人